

- ①出生数・・・2022年の全国出生数は80万人割れ（想定より11年早い）、本県でも過去最低。
- ②婚姻数・・・全国・群馬県とも戦後最低。
※群馬県における出生数・婚姻数の減少幅（2010→直近）は全国平均より大きい。
- ③保護者の年収・・・小中学生のいる保護者世帯の14.8%が年収300万円未満。子育てに係る経済的負担は大きい。

①出生数の推移

	2010年				2022年	
群馬県	16,023人	→	▲33.3%	→	10,688人	
全国	1,071,304人	→	▲28.1%	→	770,759人	

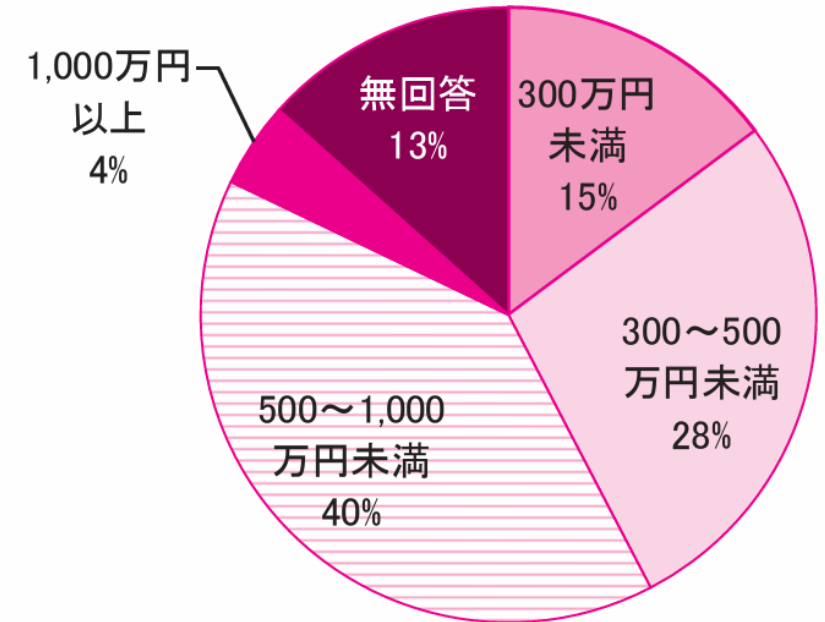
（出典）厚生労働省「人口動態統計」

②婚姻数の推移

	2010年				2022年	
群馬県	9,679組	→	▲30.7%	→	6,704組	
全国	700,214組	→	▲27.9%	→	504,930組	

（出典）厚生労働省「人口動態統計」

③保護者の年収（群馬県）



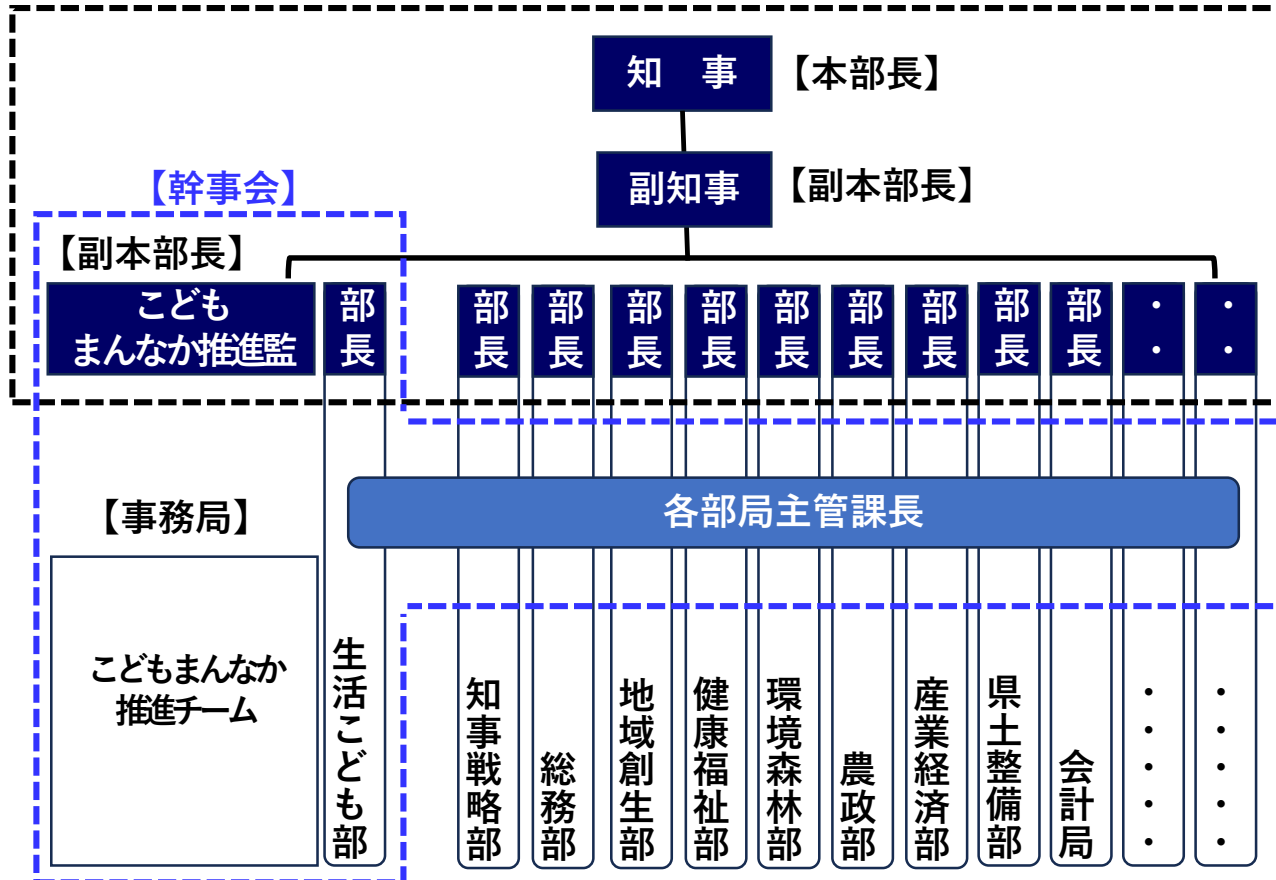
（出典）県第7回ぐんま青少年基本調査（平成28年度）

全庁的な推進体制の整備(こどもまんなか推進本部・推進チームの設置)

全庁的な推進体制の整備として、

- ①知事を本部長とする「こどもまんなか推進本部」を設置するとともに、
- ②関係部局の庁内若手職員で構成する「こどもまんなか推進チーム」を設置し、新・群馬モデルとなる施策群「こどもまんなか推進プログラム」の検討を行う。(プログラムの骨子は夏頃、プログラム本体は年度末に策定予定)

こどもまんなか推進本部



こどもまんなか推進チーム

○関係部局の若手職員で構成



※子育て世帯の思いや経験も施策に反映

○こどもまんなか推進プログラムの検討

- ①対話やデータ分析等により課題を抽出
- ②「新・群馬モデル」の検討
- ③EBPMにより実効性の高い施策を選択